

外科

診療局次長兼がん治療センター長兼主任部長兼感染症センター長兼医療安全管理室長
位藤俊一



当院の「外科」は大別して、「上部消化管」「下部消化管」「肝・胆・膵」「乳腺・甲状腺外科」および「小児外科」のさまざまな領域の診療を提供しております。各領域では専門医、指導医が責任をもって治療にあたっております。

特にがん治療においては、乳がん、甲状腺がん、食道がん、胃がん、大腸がん、直腸がん、肝がん、胆道がん、膵がんを中心に、手術、抗がん剤治療や放射線治療などを組み合わせた集学的治療を行っております。また、医師だけでなく、多職種が参加するチーム医療を実践し、少しでも患者さんやご家族の負担を軽くするよう留意し、満足度の高い診療や治療を受けていただけるよう心掛けています。

一方、美容的な観点からも優れ、患者さんの負担軽減を考えた治療を目指して、胆石、ヘルニアや早期のがんなどでは腹腔鏡手術を積極的に取り入れています。大腸ポリープは内視鏡治療で切除し、切らずに小児乳がんのラジオ波焼灼療法にも取り組み、小児ヘルニア手術を日帰りで行うなど、できるだけ患者さんのご希望に沿えるよう努めています。

また、がんなどの悪性腫瘍に限らず、一般救急疾患などに関しても大阪府泉州救命救急センターと連携して、当医療圏内で発生した緊急症例に対する診療を行っています。

外科的疾患は早期に診断・治療を行うことが重要ですので、市民のみならずには健康診断を受けて頂きたいです。また、気になることがあれば、お近くのかかりつけ医の先生方にご相談ください。かかりつけ医の先生方との良好な連携診療でみなさんに良質な医療サービスを提供してまいります。

リハビリテーション科

技術科長代理

津野光昭



当院のリハビリテーション科は医師1人、理学療法士23人、作業療法士10人、言語聴覚士5人、事務員2人の合計41人で構成されています。

当科では泉州地域の拠点病院として発症後(手術後)早期から医師・看護師など、他職種と連携を図りながら、リハビリテーションを実施しております。

理学療法部門では、患者さんの立つ、歩くと言った基本動作の獲得を目標にリハビリを実施しております。また、糖尿病患者さんの糖尿病教室や生活習慣病の教育事業にも参加を行い患者さんの運動習慣の改善に貢献できるように活動を行っています。また昨年7月より外来心臓リハビリテーションの本格運用も開始しました。

作業療法部門では、患者さんの日常生活動作(身の回り動作)の改善を目的にリハビリを施行しております。また、それらの動作の方法を安全に実施して頂ける為のパンフレットの作成や福祉用具の紹介、提供も併せて行っております。

言語聴覚部門では、言葉に障害を持った患者さんのコミュニケーション能力の改善や正しい発音が行えるようにリハビリを施行しています。また患者さんが安全に食事を摂って頂けるように病棟スタッフと協力して摂食機能療法にも積極的に取り組んでいます。

最後に、地域のリハビリ関連病院とも連携を密にし、早く安全に家庭復帰、職場復帰して頂けるようにリハビリスタッフ一同、熱意と工夫で取り組ませていただきます。

地域の医療連携の中核を担う

りんくう総合医療センター

問合先 地域医療連携室 (☎469-3111 Fax469-7929)